

問1 7世紀後半から九州の筑前国に置かれた大宰府は、その地理的条件からどのような役割を担っていた行政機関ですか。その主な任務について述べたものを選びなさい。（2017年 広島公立入試 類似）

1. 外国との交渉や九州の統治、および対外的な防衛の拠点としての役割
2. 東北地方の蝦夷（えみし）の帰順や土地の開墾を統括する役割
3. 鎌倉に幕府が開かれた後、朝廷の動きを監視し西国の裁判を行う役割
4. 江戸時代、西日本の諸大名の監視や長崎貿易の管理を担う役割

問2 古代日本の租税制度のうち、班田収授法との関わりが最も深い「租」の仕組みや特徴を説明したのとして、正しいものはどれですか。（2019年 大阪公立入試 類似）

1. 口分田を与えられた民衆が、収穫した稲の一部を地方の国庫に納める負担。
2. 都での労役の代わりに、麻布などを都まで運んで納める負担。
3. 絹や布、糸といった各地の特産品を、都まで運んで納める負担。
4. 国司の命令により、土木工事などのために年間60日を限度として働く負担。

問3 663年の白村江の戦いで敗れた後、大和政権は大宰府を守るためにその周辺の防衛を強化しました。この時、大宰府の北側に築かれた、巨大な土塁と堀を持つ防衛施設を何と呼びますか。（2017年 広島公立入試 類似）

1. 水城（みずぎ）
2. 多賀城（たがじょう）
3. 鴻臚館（こうろかん）
4. 吉野ヶ里（よしのがり）

問4 奈良時代から平安時代にかけて、当時の中国の王朝が持つ優れた文化や政治制度、仏教などを日本へ導入することを目的に派遣された使節を何といいますか。また、この使節に同行して海を渡り、帰国時に茶の種子を日本へ持ち帰ったとされる人物の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2021年 長野県公立入試 類似）

1. 遣唐使と最澄
2. 遣唐使と空海
3. 遣隋使と最澄
4. 遣隋使と小野妹子

問5 710年に都が平城京へと移されたあと、8世紀の日本（奈良時代）において行われた出来事として、歴史上の時系列が正しいものはどれですか。（2022年 高知公立入試 類似）

1. 卑弥呼が中国の魏に使いを送り、親魏倭王の称号を授かる
2. 中大兄皇子らが蘇我氏をたおし、大化の改新の詔を出す
3. 聖武天皇の命により、都に大仏を本尊とする東大寺が建立される
4. 藤原頼通によって、宇治に極楽浄土を象徴する平等院鳳凰堂が建てられる

問6 奈良時代の中頃、相次ぐ政変や疫病、飢饉による社会の不安を鎮めるため、仏教の力によって国家を安定させようとする「鎮護国家」の思想に基づき、東大寺に大仏を造るよう命じた人物は誰ですか。（2023年 鳥取公立入試 類似）

1. 聖武天皇
2. 天武天皇
3. 天智天皇
4. 推古天皇

問7 奈良時代には、天皇を中心とする律令国家の体制を整えるため、国家の成り立ちや正当性を示す歴史書の編纂が行われました。この時期にまとめられた、日本最古の歴史書とされる書物と、中国の歴史書の形式にならって編纂された正史の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2019年 千葉県公立入試 類似）

1. 古事記・日本書紀
2. 古今和歌集・万葉集
3. 風土記・日本書紀
4. 日本書紀・解体新書

問8 班田収授法によって口分田を与えられた農民には、さまざまな税の負担が課せられました。このうち、口分田の収穫から約3パーセントの稲を納める義務を何と呼びますか。その名称と内容として適切なものを選びなさい。（2018年 大阪公立入試 類似）

1. 「租」と呼ばれ、地方の役所に納められて国や地方の備蓄となった。
2. 「調」と呼ばれ、地方の特産物を都まで運んで納める負担であった。
3. 「庸」と呼ばれ、都での労役の代わりに布を納める負担であった。
4. 「公出挙」と呼ばれ、国から稲を借りて利息をつけて返す制度であった。

問9 古代において、東アジアと西アジアやインドを結び、物資や文化の交流を可能にした交易路がある。東大寺正倉院に収められた宝物にも、この交易路を通じてもたらされた西方の影響が見られるが、この道の名称として最も適切なものはどれか。（2025年 青森県公立入試 類似）

1. 東海道
2. シルクロード（絹の道）
3. 中山道
4. コロンブスの航路

答え合わせ・解説

問1	答え 1 外国との交渉や九州の統治、および対外的な防衛の拠点としての役割	大宰府は「遠の朝廷（とおのみかど）」とも呼ばれ、大陸に近い九州北部の要衝に置かれました。唐や新羅といった外国からの使節を応接する外交の窓口としての機能と、外国の侵攻に備える防衛の拠点、さらには九州全体の統治という重要な任務を併せ持っていました。東北の蝦夷に対するのは鎮守府、朝廷の監視は六波羅探題などが担った役割であり、これらと混同しないことが重要です。
問2	答え 1 口分田を与えられた民衆が、収穫した稲の一部を地方の国庫に納める負担。	「租」は班田収授の制と密接に結びついており、政府から与えられた口分田という土地を課税対象としていました。これに対し、「調」は地方の特産物、「庸」は都での労役（歳役）の代わりに布、「雑徭」は地方での労働を指し、これらは土地ではなく人（成人男性）を主な対象として課された税であるという違いがあります。
問3	答え 1 水城（みずき）	白村江の戦いで敗北後、唐・新羅連合軍の侵攻を恐れた朝廷は、九州の防衛を急ぎました。外交・行政の中心地である大宰府を守るため、その北側に「水城」という大規模な堤防（土塁と堀）を築き、さらに周囲の山々には大野城などの朝鮮式山城を建設して、防衛体制を整えました。多賀城は東北地方の拠点であり、鴻臚館は外交使節の宿泊施設です。
問4	答え 1 遣唐使と最澄	遣唐使は、唐の律令制度や仏教文化を直接学ぶために日本から派遣された公式の使節です。天台宗を開いた僧の最澄は、804年にこの使節の一員として唐に渡りました。最澄は仏教の教えだけでなく、茶の種子を日本に持ち帰り、それが日本の喫茶文化の始まりの一つになったという伝承が残されています。遣唐使は唐の前の王朝である隋に送られたものです。
問5	答え 3 聖武天皇の命により、都に大仏を本尊とする東大寺が建立される	平城京に都がおかれていた時代を奈良時代と呼びます。この時代には聖武天皇が、仏教の力で国を治めようとする鎮護国家の思想に基づき、各地に国分寺を、都に総国分寺としての東大寺を建立しました。卑弥呼の遣使は3世紀（弥生時代）、蘇我氏の打倒は7世紀（飛鳥時代）、平等院鳳凰堂の建立は11世紀（平安時代）の出来事であり、時期が異なります。
問6	答え 1 聖武天皇	奈良時代、相次ぐ災いや混乱を収めるために、仏教を重んじる政治が行われました。聖武天皇は全国に国分寺・国分尼寺を建てることを命じるとともに、その総本山的な役割を持つ東大寺に、国の平安を願って大仏を造立しました。
問7	答え 1 古事記・日本書紀	奈良時代には、天皇による統治の由来を神話の時代からさかのぼって記録し、国内外に国家の正当性を示すための事業が行われました。その結果、712年に『古事記』が、720年に『日本書紀』が完成しました。『古今和歌集』は平安時代に編纂された勅撰和歌集であり、時代が異なります。
問8	答え 1 「租」と呼ばれ、地方の役所に納められて国や地方の備蓄となった。	口分田の面積に応じて課せられた税が「租」です。これは収穫した稲の約3%という比較的軽い負担であり、地方にある「正倉」という倉庫に納められ、地方政治の財源や飢饉に備えた備蓄として利用されました。これに対し、都まで運ぶ必要があった「調」や「庸」は農民にとって非常に重い負担となっていました。
問9	答え 2 シルクロード（絹の道）	奈良時代の天平文化は、遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受けているが、当時の唐は西アジアやインドなどとの交流が盛んであった。この東西交流を支えた内陸の交易路は、中国の特産品である絹が多く運ばれたことから「シルクロード（絹の道）」と呼ばれる。正倉院には、この道を経て伝わったガラス容器や楽器などが収蔵されており、国際色豊かな特徴を示している。「東海道」は江戸時代に整備された日本の五街道の一つであり、時代や場所が異なる。